佐賀県林業試験場の概要

Saga Prefectural Forestry Experiment Station

令和8年(2026年)4月



サガンスギ生産者トレーニングセンター



サガンスギ(6年生)



県有林を活用したサガンスギ植栽



さが林業アカデミー(講習会)

SAGAN サガンスギ SUGI

佐賀県佐賀市大和町大字池上3408

佐賀県
http://www.pref.saga.lg.jp/

目　次

1　沿革

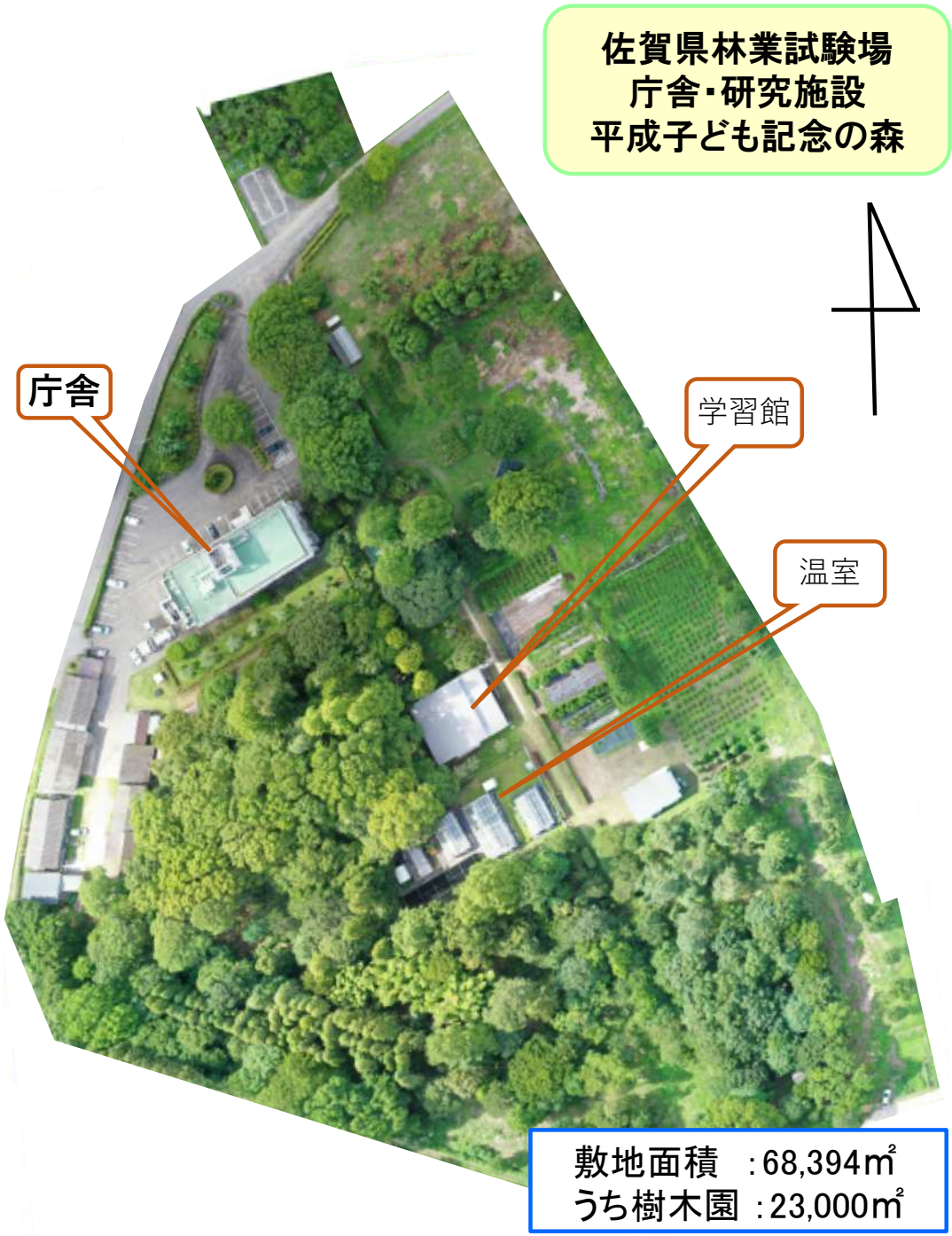
2　組織と業務

3　予算の推移

4　研究開発の取組
（1）　試験研究の重点事項
（2）　研究課題一覧表

5　普及指導の取組

6　林業試験場案内図



1　沿革

○ 1952（S27）年　3月
　佐賀県林業試験場設置条例が制定され、佐賀県林業試験場として発足
　（川上種馬育成場跡（畜産課）から引継いだ県営川上苗圃に設置）
○ 1953（S28）年　1月
　経営科と種苗科が設置
○ 1957（S32）年12月
　経営科、種苗科を廃止し、研究管理室と樹苗養成室を設置
○ 1942（S37）年　5月
　研究管理室を経営管理室と研究室に分離し、樹苗養成室を育苗室に変更
○ 1975（S50）年　8月
　経営管理室を廃止し、庶務課を設置、研究室を育林経営研究室と緑化林産研究室に
　分離、育種課を新設
○ 1978（S53）年12月
　新庁舎竣工、林業技術実習指導施設併設
○ 1985（S60）年　4月
　育種課を育種室に改称
○ 2000（H12）年　4月
　育種室を普及指導室に改称
○ 2002（H14）年　4月
　育林経営研究室と緑化林産研究室を研究開発室に統合
○ 2003（H15）年　3月
　平成子ども記念の森、学習館竣工
○ 2004（H16）年　4月
　庶務課を総務課に、研究開発室を研究開発担当に、普及指導室を普及指導担当に改称
○ 2019（H31）年　4月
　普及指導担当を普及指導課に改称（林業課の普及指導部門が移管）
○ 2026（R8）年　4月
　普及指導課に県営林担当を配置（林業課の県営林業務が移管）



林業試験場庁舎（昭和３３年（1958年）頃）



林業試験場庁舎（昭和５３年（1978年）竣工）



正門（昭和５０年（1975年）頃）



平成子ども記念の森・学習館（平成１５年（2003年）竣工）

2　組織と業務

場長

1名（研究）

副場長

1名（研究）

職員数24名

・行政事務職 1名
・研究職 6名
・普及指導員 4名
・林務技術職 3名
・林務技術職（再）1名
・農業職 1名
・会計年度任用職員 8名

総務課

2名
課長1（行政）
会計年度任用職員1

- 庶務一般、予算管理
- 施設・機材等の管理

研究開発担当

8名（うち研究員4名）
係長（研究）1
研究員3
技師（農業）1
会計年度任用職員3

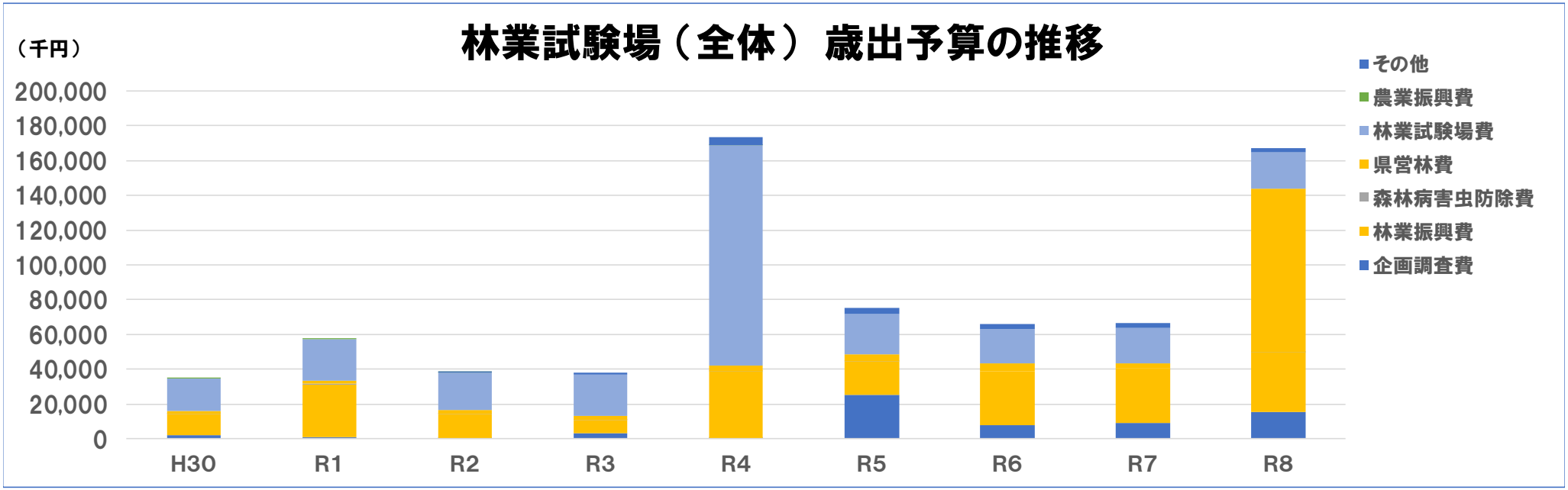
- 造林及び林木育種に関する研究
- 木材の利用開発に関する研究
- 特用林産物に関する研究
- 森林病害虫に関する研究

普及指導課

12名（うち普及指導員4名）
課長1（専門技術員）
係長2（普及、県営林）
専技2（専門技術員）
主任主査1（林業）
主査2（林業）
会計年度任用職員4

- 研究成果の普及指導
- 林業技術・経営の普及指導
- 採種・採穂園等の育成管理
- 優良種苗（種子・穂木）の供給
- 森林環境教育の推進
- 県営林の管理・生産・整備
- 県行造林・県有林分収林の管理

3　予算の推移①



※R４(2022)の外壁等工事は林業試験場費に計上。R5(2023)のサガンスギ温室(電源立地交付金)は企画調整費に計上。R8(2026)の積載型ﾄﾗｯｸｸﾚｰﾝ(電源立地交付金)は企画調整費に計上。

（単位：千円）

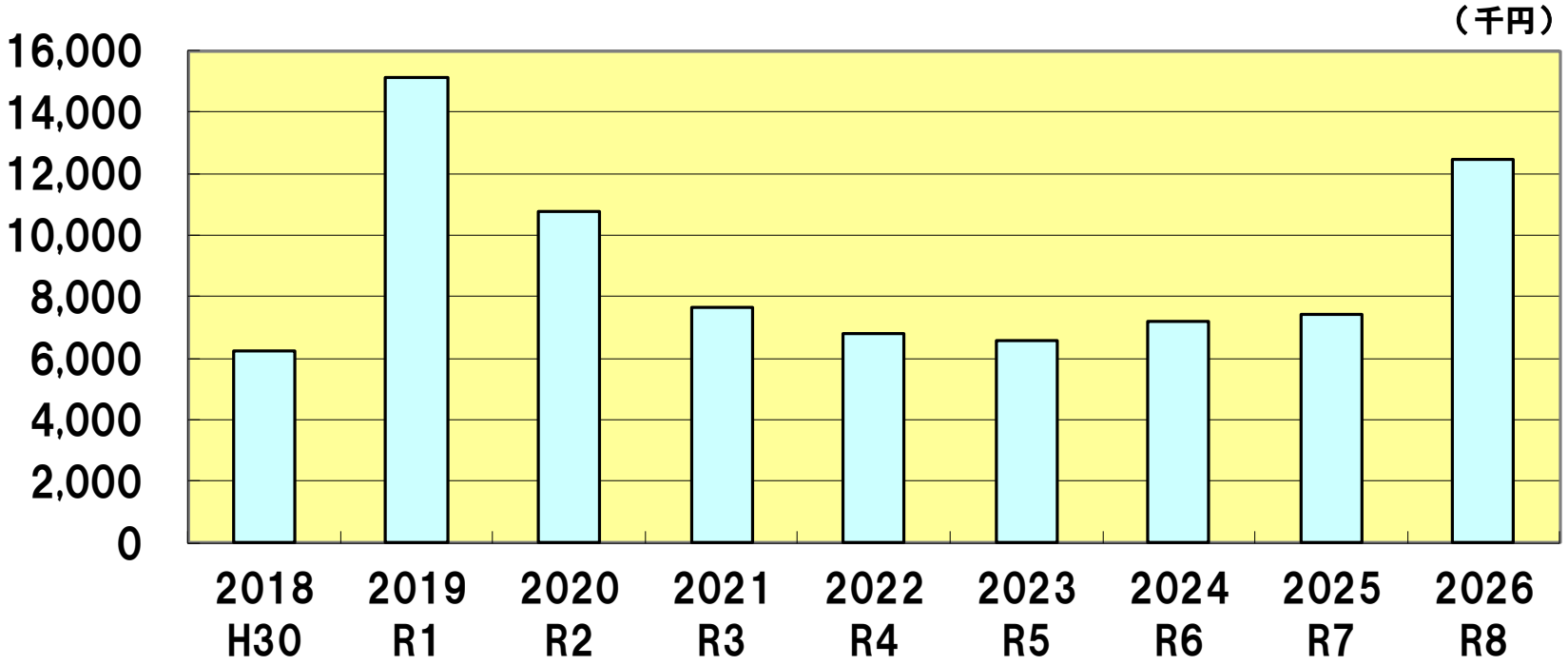
年度	西暦	企画調査費	林業振興費	森林病害虫防除費	県営林費	林業試験場費	農業振興費	その他	計
H３０	2017	2,129	12,051	28	1,939	18,185	0		34,332
R１	2018	1,092	30,263	13	1,981	23,604	1		56,953
R２	2019	220	14,261	1	2,140	21,302	159	237	38,320
R３	2020	3,163	7,572	1	2,300	24,050	0	897	37,982
R４	2021	537	38,357	13	3,056	127,140	1	4,193	173,297
R５	2022	25,296	19,370	4	4,090	22,886	0	3,450	75,096
R６	2024	7,628	30,796	0	5,052	19,483	0	3,223	66,182
R７	2025	8,926	31,423	0	2,864	20,242	0	3,226	66,681
R８	2026	15,201	34,529	14	94,294	20,676	0	2,319	167,033

※R７(2025)までは決算ベース、R８(2026)は当初予算ベース

※R８(2026)の県営林費は、林業課の県営林業務の移管により予算増。

3　予算の推移②

林業試験場の試験研究予算の推移



（単位：千円）

区　分	2018 H30	2019 R1	2020 R2	2021 R3	2022 R4	2023 R5	2024 R6	2025 R7	2026 R8
一般財源	5,460	7,377	4,175	2,005	2,950	4,072	3,868	3,935	3,950
一般以外	757	7,777	6,568	5,633	3,840	2,518	3,323	3,490	8,525
合　計	6,217	15,155	10,743	7,638	6,790	6,590	7,191	7,425	12,475

※Ｒ２（2020）までは決算ベース、Ｒ３、Ｒ４は6月補正後ベース、Ｒ５～当初予算ベース。（行政依頼課題含む。）

※Ｒ７（2025）～Ｒ８（2026）は新規研究課題及び行政依頼課題の実施増による予算増.

4　研究開発の取組
（１）試験研究の重点事項（令和8(2026)年度）

① 造林及び林木育種に関する研究（低コスト林業の推進）

- サガンスギで下刈1回を実現するための育苗・造林技術の開発
- 新たな樹高成長評価推定モデルを活用した地位推定技術の開発（共同研究）
- サガンスギの発根メカニズムの解明と散水省力化に関する研究

② 森林環境に関する研究（森林環境の保全）

- DNA情報を活用したサガンスギの無花粉化に関する研究

③ 木材の利用開発に関する研究（県産木材の利用推進）

- クリーク杭木の耐久性向上に関する研究

④ 特用林産物に関する研究（特用林産物の振興）

- 原木しいたけ栽培の省力化に関する研究

◎ その他行政課題等（4課題（森林・林業関連調査））

- 放射光-X線回折法による年輪内材質形質の評価技術の確立（共同研究）
- 広葉樹造林技術の開発（森林環境税事業）　ほか

（２）研究課題一覧表　令和8(2026)年度
【研究課題　6課題】【行政課題等　5課題】

令和8(2026)年度　林業試験場　研究課題一覧

	課題名	新継	分野	期間	予算区分	予算額	試験内容	参考主担当
1	**サガンスギで下刈り１回を実現するための育苗・造林技術の開発**	新	育林	R８(2026)～R１２(2030)	県単	900	育苗段階で、初期成長に優れた高規格な苗の生産技術を開発する。造林段階では、最適な植栽時期と下刈り時期を明らかにし、下刈り回数の削減をめざす。	
2	**新たな樹高成長評価モデルを活用した地位推定技術の開発** 〔森林総合研究所関係（共同研究）〕	継	育林	R５(2023)～R９(2027)	その他	666	新たな樹高成長推定モデルを活用した地位推定技術を開発し、樹高成長に影響する立地環境特性や生物的特性の解明を行い、樹高成長予測の精度及び汎用性の向上をめざす。	
3	**サガンスギの発根メカニズムの解明と散水省力化のための研究** 〔将来を見据えた試験研究〕	新	育種	R８(2026)～R１０(2028)	県単	700	サガンスギの発根メカニズムを解明することで、育苗期間を短縮する。また、休耕田を利用した水耕栽培により散水を省力化する。	
4	**DNA情報を活用したサガンスギの無花粉化に関する研究**	新	育種	R８(2026)～R１２(2030)	県単	1,700	佐賀県独自の第一世代精英樹と第二世代精英樹でゲノム予測モデルを構築し、ゲノム予測の精度を高め、無花粉スギの作出をめざす。	
5	**クリーク杭木の耐久性向上に関する研究**	継	林産(木材)	R１(2019)～R10(2028)	県単	650	クリーク木柵工に各種の耐久性向上処理を施すことにより、木柵工の耐用年数の向上を図る。また、木材腐朽菌を使用した耐腐朽性試験を実施し、耐久性の早期解明をめざす。	
6	**原木しいたけ栽培の省力化に関する研究**	継	特用林産	R２(2020)～R９(2027)	県単	700	原木しいたけ栽培において、加工した大径原木を用いた省力化の検討、春切り等による秋期の作業分散の有効性の検証、古ホダ木への発生操作の費用対効果の調査等を行う。	
	研究課題（林業試験場予算）					5,316		
1	**松くい虫発生予察事業**	継	保護	S49(1974)～	行政依頼県単	14	マツノマダラカミキリの成育及び発生調査を行う。	
2	**クリーク木杭の耐腐朽性等に関する調査**	継	林産(木材)	H24(2012)～	行政依頼県単	10	クリーク防災杭に使用される木杭の耐久性調査を行う。	
3	**放射光－Ｘ線回折法による年輪内材質形質の評価技術の確立と複数のスギ系統における年輪内材質形質の選抜手法の検討** 〔九州シンクロトロン光研究センター関係(共同研究)〕	継	林産(木材)	R６(2024)～R９(2027)	行政依頼県単	1,389	スギ系統における年輪内材質形質について、放射光を用いた調査を行う。 （林業課、ものづくり課）	
4	**広葉樹造林技術の開発** 〔森林環境税〕	新	育林	R８(2026)～	行政依頼県単	5,450	さが四季彩の森林づくりによる広葉樹造林地の追加調査により、目標林型の設定及び広葉樹造林マニュアルの作成を行う。	
5	**サガンスギの森林100年構想事業** 〔苗木生産者の育成〕	継	育苗	R６(2024)～	行政依頼県単	296	小型穂による苗木生産技術の普及に向け、苗木生産者の育成を行う。（普及指導課連携）	
	行政依頼課題等（林業課等予算）					7,159		
	合　　計					12,475		

①サガンスギで下刈り1回を実現するための育苗・造林技術の開発（2026(R8)～2030(R12)）

研究開発の取組

【R8予算額：900千円】

◇　目的

育苗段階で、初期成長に優れた高規格な中苗（60～80cm）の生産技術を開発する。
造林段階では、最適な植栽時期と下刈り時期を明らかにし、下刈り回数を削減する。

【試験研究内容】

1　植栽後早期に２ｍに到達するサガンスギ苗の生産技術の開発

（１）通常穂(35cm)を用いた中苗（60cm)の育苗試験
（２）通常穂(20cm)を用いた中苗（60cm)の育苗試験
※培地、育苗密度、施肥方法などを試験

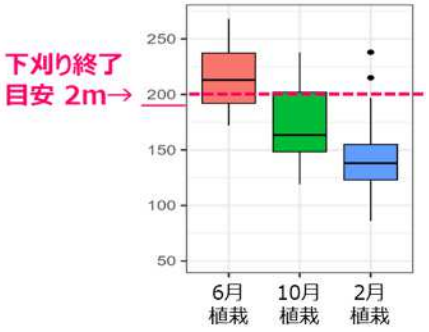
（３）中苗（60cm)の植栽試験



中苗育苗のイメージ

2　植栽時期・下刈り時期による初期成長への影響の解明

（１）主伐後の植生回復調査
（２）植栽時期別の成長調査
（３）下刈り時期別の成長調査



植栽時期別調査
（植栽2年後の例）



下刈り時期別調査



レーザードローン
（DJI Matrice400,Zenmuse L2）

研究開発の取組

② 新たな樹高成長評価モデルを活用した地位推定技術の開発（2023(R5)～2027(R9)）

【R8予算額：666千円】

◇ 目的

新たな樹高成長推定モデルを活用した地位推定技術を開発するとともに、樹高成長に影響する立地環境特性や生物的特性の解明を行い、樹高成長予測の精度及び汎用性の向上を目指す。

【試験研究内容】

1 航空レーザー測量、森林簿情報等による樹高成長推定モデルの構築

（１）スギの樹高成長推定モデルの構築

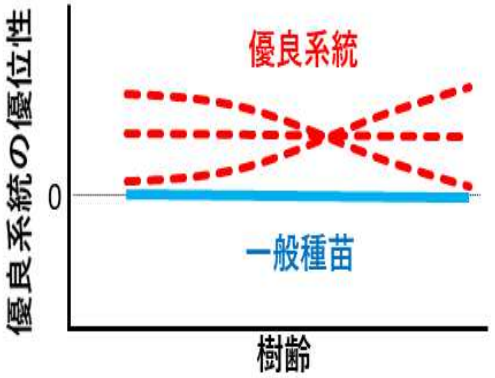
（２）毎木調査

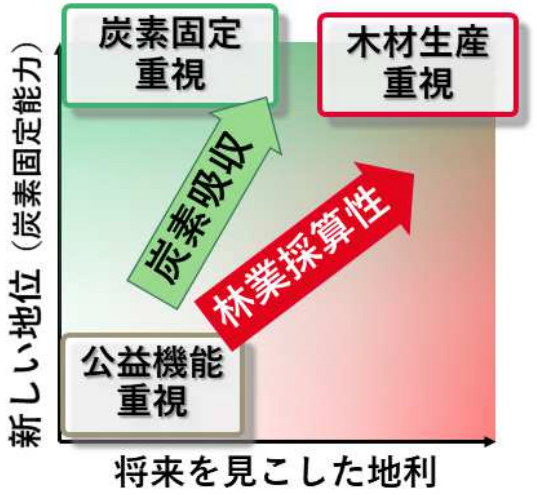
（３）地位推定マップ作成

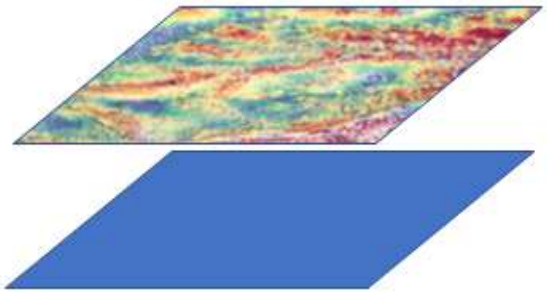
2 林木の成長に影響を及ぼす立地環境要因の解明

（１）立地環境調査

（２）若齢林分の毎木調査







エリートツリー等を活用した林業採算性マップ（イメージ）

③ サガンスギの発根メカニズムの解明と散水省力化のための研究（将来を見据えた試験研究）（2026（R8）～2028（R10））

研究開発の取組

◇ 目的

【R8予算額：700千円】

発根メカニズムを解明することで、育苗期間の短縮と得苗率の向上を図る。
休耕田利用により、散水なしでの育苗方法を検討し、作業の省力化を図る。

【試験研究内容】

1 発根メカニズムの解明

・肥料を葉面散布により投与し、光合成を活性化させた時の発根について調査。
・植物ホルモン活性剤（オーキシン誘導）を葉面散布により投与した際の発根について調査。

2 散水省力化（発根後の育苗期間を対象）

・休耕田等を利用し、容器の底面から吸水させることで、散水を省力化する。

発根メカニズムの解明



休耕田利用による散水省力化





研究開発の取組

④　DNA情報を活用したサガンスギの無花粉化に関する研究（2026(R8)～2030(R12)）

【R8予算額:1,700千円】

◇　目的

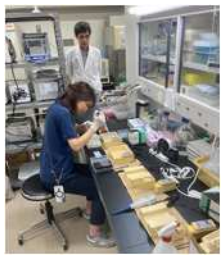
人工交配で作出した苗木からDNAを抽出し、**無花粉遺伝子の判別技術**と、成長や材質を実生段階で予測する**ゲノミック選抜**を適用することで、無花粉の遺伝子を持ち、成長や材質がサガンスギと同等の個体を早期選抜する。

【試験研究内容】

- 人工交配（無花粉遺伝子保有スギ×サガンスギ）
- 候補個体の育苗
- 無花粉遺伝子判別
- ゲノミック選抜
- 予測精度検証用試験林の設定



・人工交配で作出した苗木

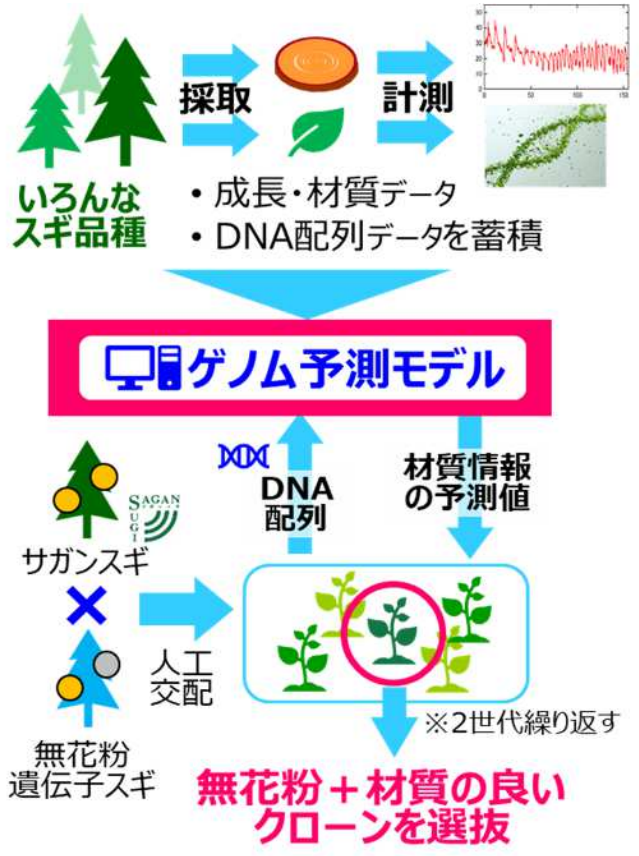




DNA簡易抽出法
（主な試薬は家庭用洗剤）



・無花粉遺伝子（質的形質）を１箇所のDNA上の変異で確認する。



・成長や材質（量的形質）を約10,000箇所のDNA上の変異と約50年をかけて蓄積した形質情報との関係から予測する。

⑤ クリーク杭木の耐久性向上に関する研究

研究開発の取組

（2019（R1）～2028（R10））

【R8予算額：650千円】

◇ 目的

スギ間伐材を用いたクリーク木柵工の耐久性の向上のため、杭の頭部における施工方法の改良等について試験研究を行い、耐用年数の長期化を図る。

★ 取組状況

○試験杭の現地施工及び調査
→試験杭の現地施工及び追跡調査
○新たな防腐処理方法の検討
→市販の塗料とＣＮＦ（ｾﾙﾛｰｽﾅﾉﾌｧｲﾊﾞｰ）を混合した塗料等による試験杭の作製
→アセチル化処理による耐腐朽性の調査



試験杭の施工状況

☆ 今後の取組

○耐久性向上処理を施した背板の製作
○試験杭、背板の現地施工及び追跡調査
○更なる杭頭処理方法の検討
○各施工方法のコスト分析
○人工的な腐朽処理技術による耐久性の早期解明



試験杭の設置箇所

⑥ 原木しいたけ栽培の省力化に関する研究

研究開発の取組

（2020（R2）～2027（R9））

【R8予算額：700千円】

◇ 目的

生産者の高齢化が懸念されている中、労働負荷の大きい原木栽培においては作業の省力化は大きな課題である。そこで、①大径原木の利用、②秋期の作業分散、③古ほだ木の発生操作の観点から原木栽培の省力化を図り、原木しいたけの安定生産に寄与する。

★ 取組状況

〇大径原木の省力的な利用方法
縦４分割、縦２分割、短木等のほだ木の作製、発生操作、収量調査など

〇原木の春切り
春切り原木（ ２月～４月伐倒）のほだ木の作製、発生操作、収量調査など

〇古ほだ木への発生操作
くぎ目入れ＋散水、ヒモカッター＋散水、散水等の発生操作、収量調査など



春切り原木のほだ木の発生状況



くぎ目入れ



ヒモカッター

☆ 今後の取組

〇各試験区分での発生操作
〇大径原木、春伐り原木、古ほだ木、小径原木の収量調査
〇大径原木、春切り原木、小径原木等のほだ木の作製

研究開発の取組

行政課題
① 松くい虫発生予察事業 （1974（S49）～）

【R8予算額：14千円】

◇ 目的

松くい虫被害木からのマツノマダラカミキリの羽化発生状況と、気温（積算温度）等の気象条件との関係を調査し、今後の成虫発生時期を予測する。

この結果については、昭和４８年から県内で実施されている松くい虫特別防除（航空防除）の実施時期決定の参考資料となっている。

★ 取組状況

〇林試場内において、被害マツの割材調査を実施。
→出現したマツノマダラカミキリの幼虫または蛹の数を計測し、10頭中の蛹の頭数割合（蛹化率）を算出

〇林試場内の網室内の試験木から羽化した成虫数を初発日から終息するまで毎日調査。
→令和６年の初発日は６月11日で平年より８日遅かった。また、初発日までの有効積算温度（日平均気温が発育限界温度を超えた合計値）は559.9度であった。



割材調査状況



マツノマダラカミキリの幼虫

☆ 今後の取組

〇引き続き、羽化発生状況等の調査を行う。

研究開発の取組

行政課題
② クリーク木杭の耐腐朽性等に関する調査　（2012（H24）～）

【R8予算額：10千円】

◇　目的

佐賀平野のクリークは約800kmが土水路であるため、法面が浸食され、通行や営農に支障が出ている箇所がある。平成２４年度から県産スギ間伐材を用いた「木柵」による護岸工事が本格的に行われているが、水辺で使用されるスギ材の耐久性については明らかになっていないため、現地施工されている木柵工の木杭を引き抜き、耐久性評価のための各種調査を実施する。

★　取組状況

○平成２１～２４年度に県内で施工されたクリークを３箇所程度を選定し、年１回５本／箇所ずつ杭木の引抜を実施。
→杭引抜後、場内に運搬し各種調査を実施。水面上部に位置する部位を小さくすることで、８年以上の耐用年数を維持できるものと考えられる。



クリーク杭引抜状況

☆　今後の取組

○引き続き調査を行い、木杭の耐久性を確認する。



ピロディン調査状況

研究開発の取組

行政課題

③　放射光－X線回折法による年輪内材質形質の評価技術の確立と複数のスギ系統における年輪内材質形質の選抜手法の検討　（2024（R6）～2027（R9））

【R8予算額：1,389千円】

◇　目的

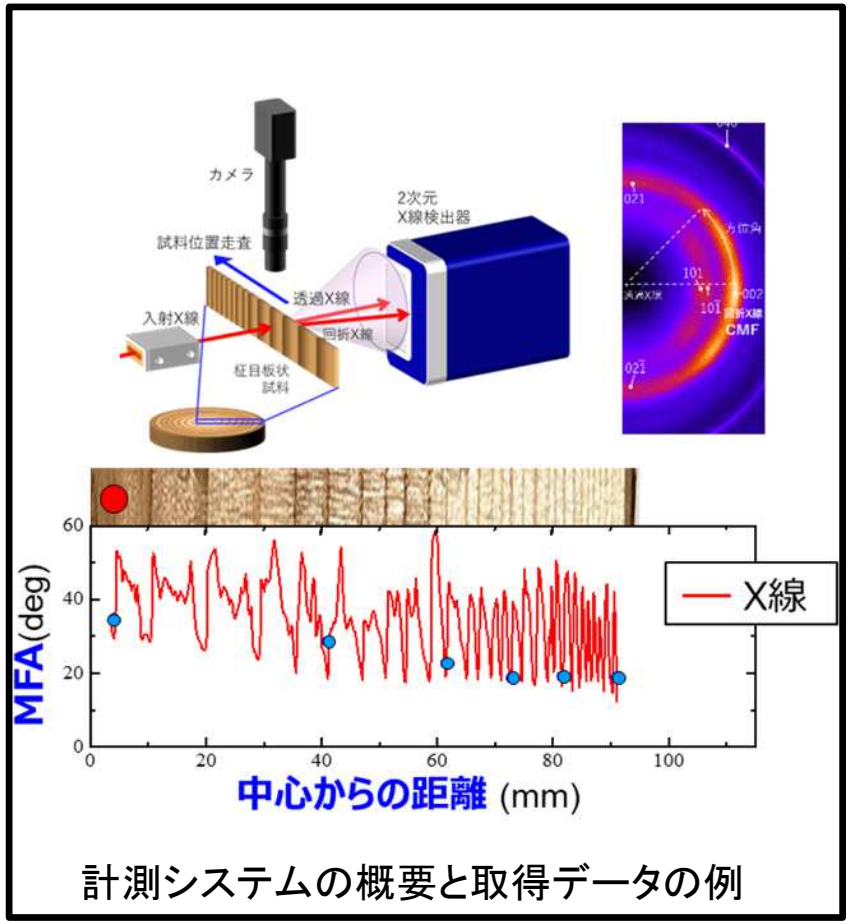
森林総合研究所林木育種センター、九州シンクロトロン光研究センター、佐賀県林業試験場の共同研究により、日本の主要な林業用樹種であるスギについて、放射光Ｘ回折法を用いた年輪内材質形質の評価技術を確立し、それによる複数のスギ系統の材質評価に基づいた優良系統の選抜手法を検討する。

★　取組内容

○放射光Ｘ線回折施設を用いたミクロフィリル傾角（MFA）の測定技術の確立

○新たに開発するスギ新品種の選抜

○スギの材質評価の高度化、材質の優れた無花粉サガンスギの開発



計測システムの概要と取得データの例



測定状況

研究開発の取組

行政課題
④　広葉樹造林技術の開発（森林環境税）　（2026（R8）～）

【R8予算額：5,146千円】

◇　目的

さが四季彩の森林づくり整備事業等で実施した広葉樹造林地の追跡調査を行い、調査結果をもとに、複数樹種を混交した環境配慮型の広葉樹造林手法の開発をおこなう。

★　取り組み内容

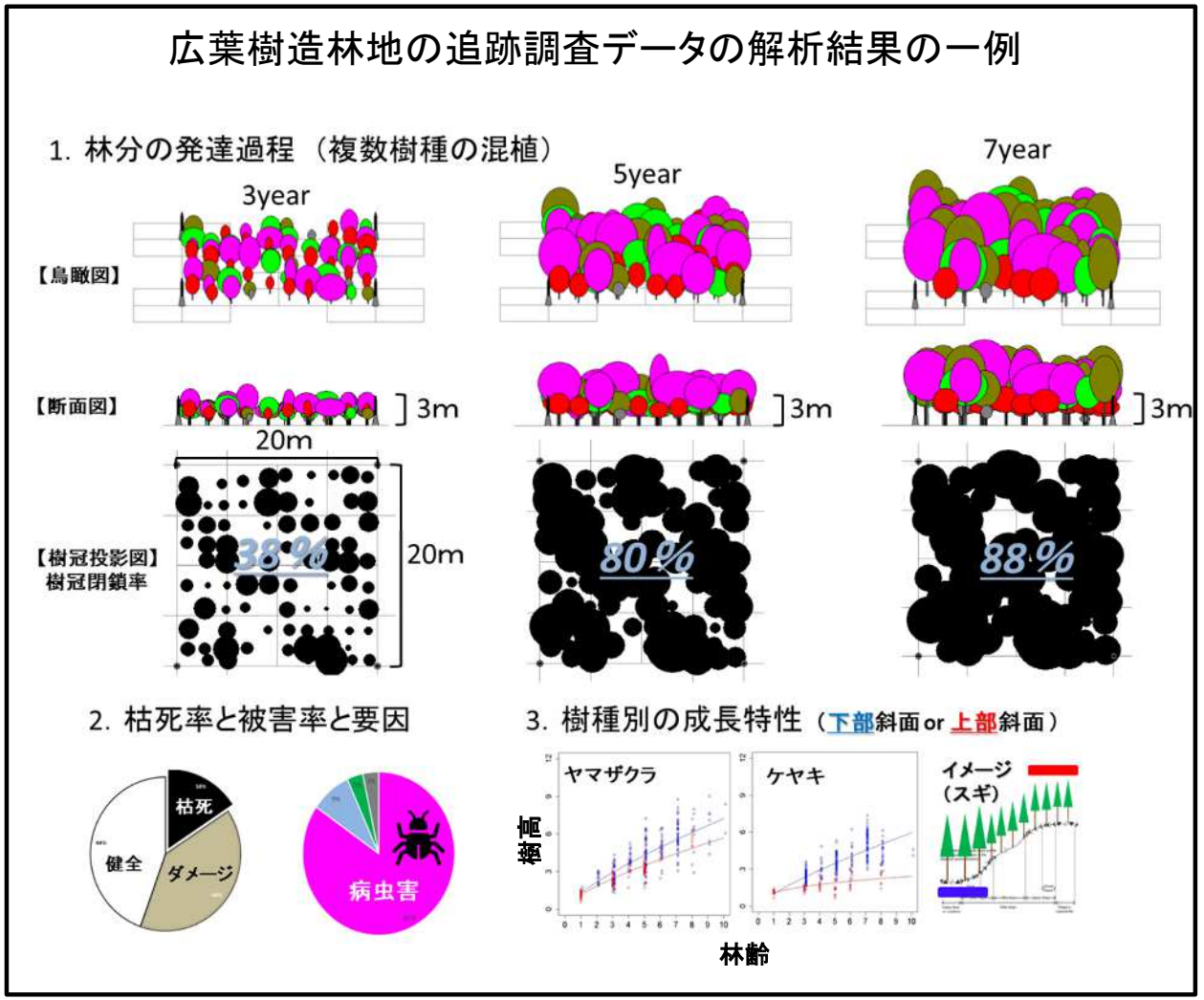
○広葉樹造林地の追跡調査
- ・林分発達過程の把握
- ・枯死率の把握
- ・樹種別の成長特性

※右図参照

○優良造林地における詳細調査（目標林型の設定）

○国内先進地での調査

○広葉樹造林マニュアル用のデータの蓄積



研究開発の取組

行政課題
⑤　サガンスギの森林100年構想事業

（2024（R6）～）

【R8予算額：296千円】

◇　目的

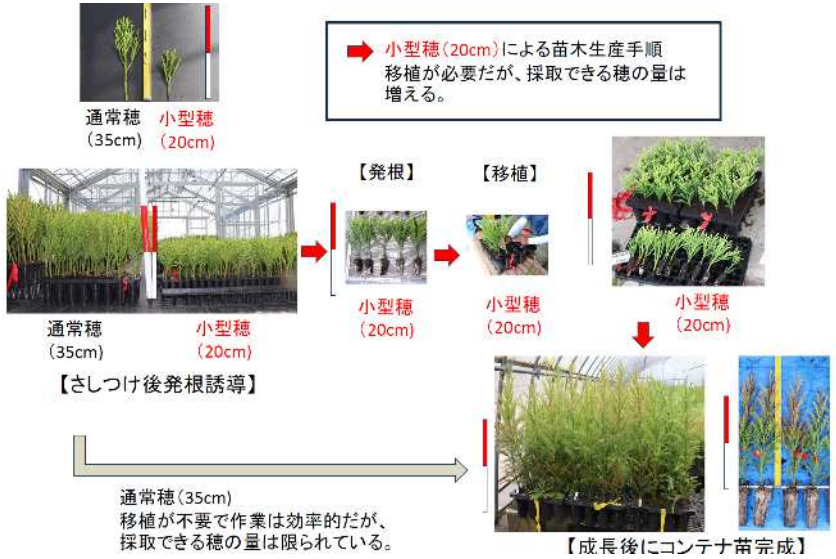
小型穂による育苗技術（サガンスギの効率的な育苗技術の開発（R5～8）の成果）の早期普及と新規苗木生産者の育成を目的に、「サガンスギ生産者トレーニングセンター」を拠点として、生産現場での技術の定着と生産者の育成を図る。

（普及指導課と連携して実施）

★　取り組み内容

〇「サガンスギ生産者トレーニングセンター」での講師と実技指導。
〇新規苗木生産者への育苗支援
〇年間約10,000本のサガンスギ苗木の生産・販売（生産モデルの提示）

サガンスギの効率的な育苗技術の開発（R5～8）の成果



サガンスギ生産者トレーニングセンターの様子



5　普及指導の取組
（１）平成子ども記念の森の概要

1 整備目的

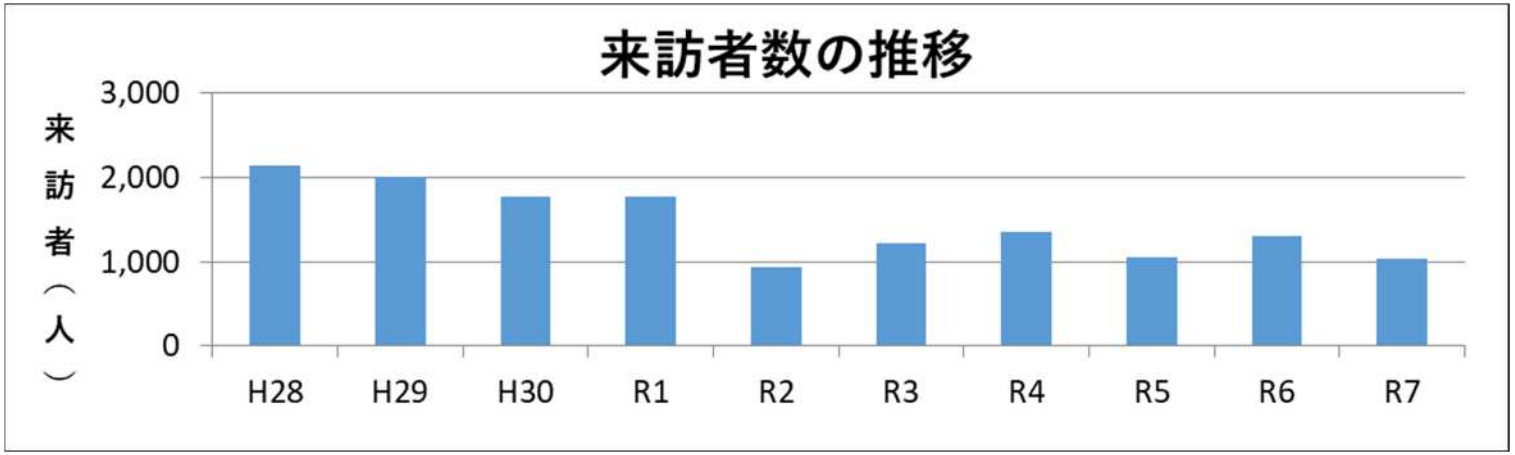
敬宮愛子内親王御誕生を記念するとともに、次代を担う子どもたちに森林や自然とのふれあいを通じて、森林・林業の重要性について理解促進を図り、知性豊かな人格形成に資するため、平成15年3月に整備

2 整備概要　（千円）

年度	整備内容	事業費
H14	○平成子ども記念の森学習館（木造平屋：283㎡） ○樹木園（8,400㎡） ○その他（散策道等L＝351m）	99,260
H25	○樹木園整備、樹木版設置、木道補修等	13,013
R4	○藤棚改修	1,210
R5～6	○木製デッキ補修	3,394
計		116,877

3 来訪者数の推移

区分	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
来訪者	2,137	2,004	1,781	1,781	935	1,227	1,350	1,060	1,301	1,045



（２） 森林環境教育・林業技術研修

普及指導の取組

林業試験場開放行事「小さな森の探検隊」の開催	小中学生等を対象とした森林体験学習	フォレストワーカー等の林業技術者育成研修	県民や苗木生産業者を対象とした研修
			
			
			

（３） 2025(R7)年度林木育種事業・優良種苗確保事業

事　業　名	内　　容	事業費等（千円）	事業量	備　考
採種源整備運営事業	・採種園・採穂園（スギ・ヒノキ・マツ）の下刈り、樹形誘導、施肥	4,464	6.35ha	林試採種園・採穂園 大町採穂園
種子採取事業	・ヒノキの種子採取及び販売	228	2.50kg	林試採種園
穂木採取事業	・スギ精英樹、サガンスギ（次世代スギ精英樹）の穂木採取及び販売	1,303	146,889本	林試採穂園 大町採穂園
採種・採穂園育成管理事業	・採種・採穂園の伐採樹木の処分	814	110㎥	林試採穂園
県営林管理事業	・採穂園（スギ）の下刈、つる切り、樹形誘導、施肥、残材処分	2,859	4.10ha	大町採穂園
サガンスギの森林100年構想	・サガンスギ採穂園の管理道　コンクリート路面工等	8,782	181m	〃
合　　計		18,450		

種子及び穂木の生産量の推移

年度	種子(kg)					穂木(本)				
	スギ	ヒノキ	クロマツ	アカマツ	計	サガンスギ	スギ精英樹	ヒノキ精英樹	虹青	計
R1	0.60	11.50	0.10	0.50	12.70		52,000	500	3,000	55,500
R2		8.50			8.50	21,475	48,000			69,475
R3		14.70*			14.70	36,900	37,000			73,915
R4		18.50※			18.50	60,700	37,000			97,700
R5		29.60※			29.60	77,500	35,000			112,500
R6		30.00※			30.00	107,900	39,000			146,900
R7		30.00※			30.00	95,089	51,500		300	146,889

※種子の生産量は洗剤選を行う前の数量であるため、販売量とは異なる。

（４）サガンスギコンテナ苗等の生産指導

令和6年11月から、当場が研究、開発したコンテナ苗の生産技術や小型の穂による苗木生産技術等を普及するため、県内のサガンスギ苗木生産者のみなさまやこれから苗木生産を始めようと考えている方を対象にした「サガンスギ苗木生産者トレーニングセンター」を設置しました。



講習内容	１月～ ４月、９月～１２月	挿木技術の指導
	１月～ ８月	育苗技術（施肥・床替）の指導
	１月～12月	育苗管理の指導
	４月、 12月	採穂台木の育成管理の指導

（５）普及指導活動

農林事務所や林業試験場の林業普及指導員、専門技術員が、森林所有者や林業経営体等の林業技術改善、林業経営の合理化等を推進し、林業の振興と森林資源の循環利用を図る

① 巡回指導

林業普及指導員は、それぞれが担当する地域において、林業経営の改善、複数の森林施業の集約化による効率的な木材生産、最新技術による低コスト化等を推進



② 職員の技術向上研修

林業普及指導員が地域において効果的な指導が行えるよう、専門技術員による研修を実施

- 刈払機安全操作指導
- チェンソー安全操作指導
- 軽架線システム指導
- 森林作業道作設指導
- 森林組合経理内容分析指導

など



（６）林業経営体育成事業

林業経営体の現場技術者等の技術力向上及び職場内で労働安全対策を担う職員等の資質の向上を図る研修を実施

① 機械整備・伐木等高度技術研修

チェンソー等の整備や目立て方法及び適切な受口や追口の制作、危険木伐倒実習など高度な技術を習得



② 高性能林業機械安全操作研修

スイングヤーダの効率的な索張り、ハーベスタ等の安全でコスト縮減につながる操作方法、メンテナンス技術を習得



③ コスト管理・分析研修

現場作業におけるボトルネックを洗い出し、コスト管理と労働安全対策を両立するための知識、手法を習得

（６）林業経営体育成事業

④ ICT活用路網整備研修

森林GIS等を活用した、地形、林分、森林経営計画等を勘案した、効率的な路網配置を計画できる知識の習得及び、効率的な作業システムの導入を図るため、安全で壊れにくい森林作業道の作設技術の習得



⑤ 林業架線作業主任者養成研修

急傾斜地など路網整備が不適な場所で活用する、林業架線による木材生産技術の習得

※林業作業の中で唯一「免許」が必要な業務

学科：７日　架線の基礎、力学、ワイヤーなど

実技：７日　機械設置、索張り、集材作業など

試験：１日　４科目の修了試験



（７）林業後継者等育成確保対策事業

普及指導の取組

① 意欲的林業者グループ交換研修事業

林業研究グループの全国及び九州地区での学習活動への参画支援を実施



② 林業就業促進体験事業

県内の高校生に対し、林業就業促進を図るため、林家や林業経営体への体験研修を実施



③ 林業教室

・CSO安全講座　地域の団体やボランティア団体に対する安全な森林整備方法や機械の取扱講習を実施

・行政等基礎講座　市町担当者や林業事業体の経験が浅い者に対する林業技術の基礎講習を実施



（８）さが林業アカデミー・林業講習会

普及指導の取組

県産木材の価格が上昇傾向にある機会を捉え、佐賀の山を守り育てるために林業の再生を図ることが重要であるが、林業就業者が年々減少していることから、林業従業者を新たに見出し教育するための講習会を実施する。

○林業講習会

林業作業に必要な資格を取得するとともに、基本的な安全作業の技術を習得する。

・森林・林業の基礎
　林業の現状、木材市況の確認

・刈払機取扱作業者安全衛生教育
　基本的作業、各種刈刃の比較使用

・伐木等業務に係る特別教育
　基本的作業、かかり木処理、造材

・車両系建設機械技能講習（外部機関）

・車両系木材伐出機械特別教育
（伐木等機械、走行集材機械）
基本操作、集材・造材・運搬

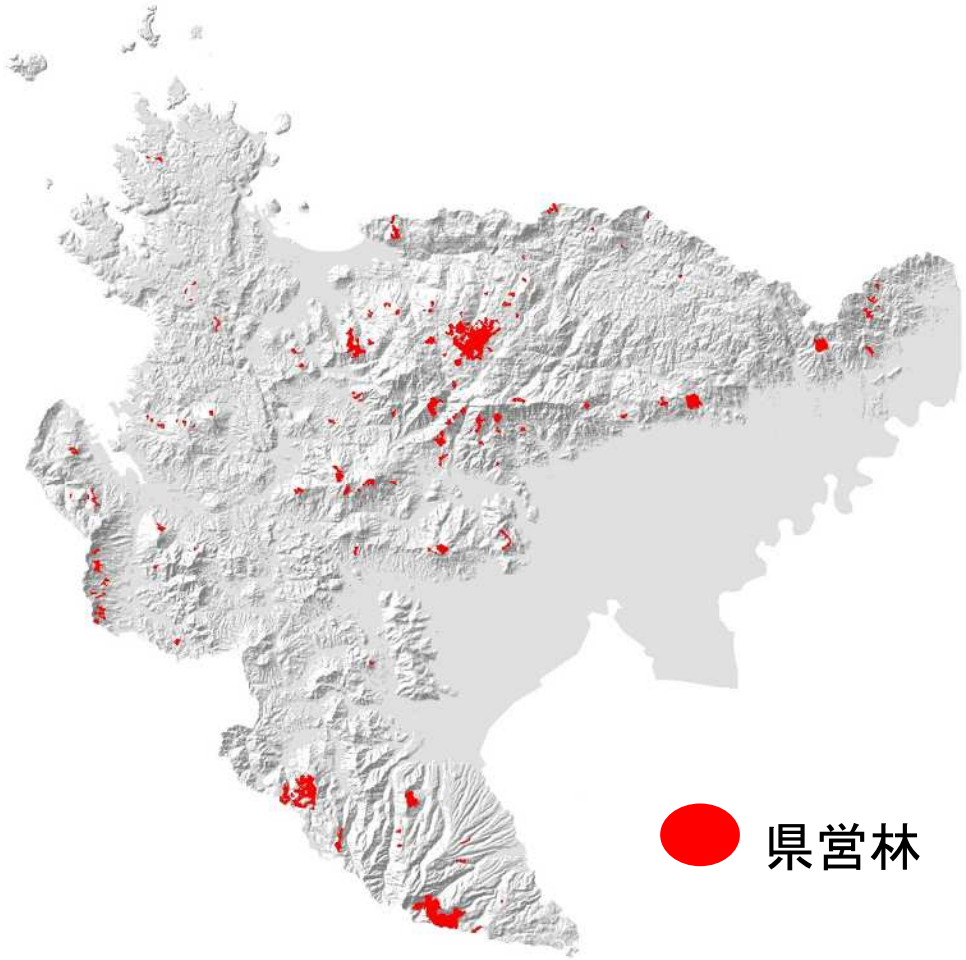




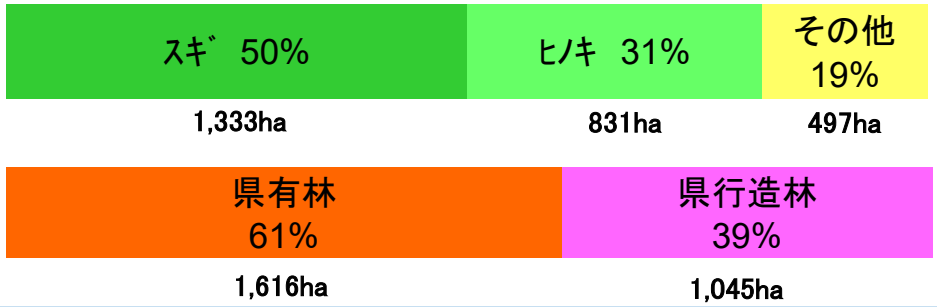
（９） 県営林の概要

県営林（県有林、県行造林）は、県の基本財産の造成や、森林の有する公益的機能の高度発揮、民有林施業の模範林造成等を目的として設置している。
現在、県内各地で県有林（28地区、1,616ha）と、県行造林（97地区、1,045ha）の経営・管理を行っており、林産物の計画的、持続的な供給など、重要な役割を果たしている。

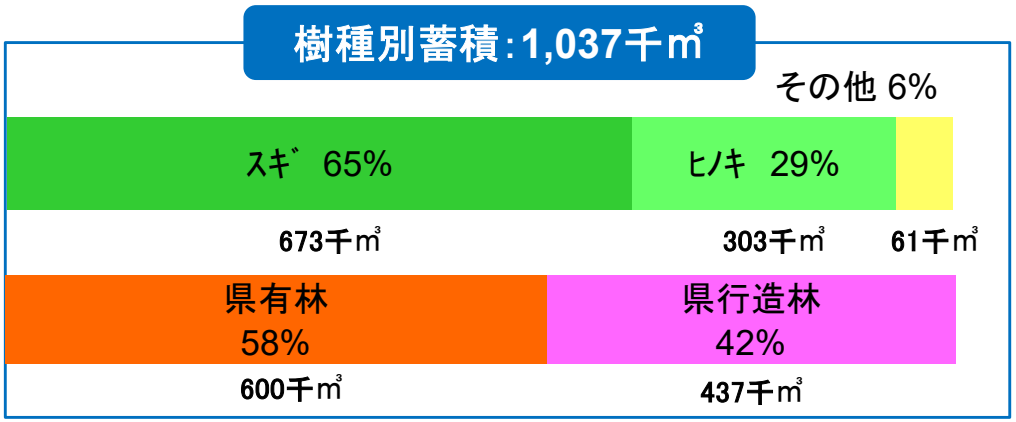
県営林の位置図



樹種別面積：2,661ha



樹種別蓄積：1,037千㎥



（10）県有林の活用

県有林は、林業関係者を対象とした林業技術研修の場として、実際の森林を活用した実践的な人材育成を行うとともに、試験研究における各種技術や手法の有効性を検証する実証試験地としても利用されています。

また、九州オルレなど森林レクリエーションの場としても活用されています。

これらの取組を通じて、持続可能な森林管理や新たな林業技術の確立につなげ、県内林業の振興と森林の健全な育成に寄与しています。



嬉野県有林を活用した伐木指導



九州オルレ　嬉野コース　出典：嬉野市ホームページ
22世紀アジアの森(メタセコイヤ展望台)



七山県有林を活用したサガンスギ植栽指導

（11）県営林の事業

① 県営林管理事業

○県営林を適切に管理するために必要な業務
- 巡視活動(境界確認、不法投棄、災害)
- 林道等の維持管理(草刈り、側溝清掃、倒木処理)
- 保険等(森林保険加入、道路施設賠償責任保険)



② 県営林生産事業

○県の基本財産の造成を目的とした、森林資源の培養、林産物の計画的、持続的な供給に必要な業務
- 主伐(伐期を迎えた県営林の伐採)
- 間伐(利用可能な森林の伐採)



③ 県営林整備事業

○森林経営計画に基づき実施する森林整備に必要な業務
- 間伐、森林作業道、再造林、下刈り等



6　林業試験場案内図



●ＪＲ佐賀駅より　タクシー：２０分、バス：昭和バス小城行　中極下車後　徒歩２０分

●長崎自動車道　佐賀大和インターより車で７分